

群 教 ゼ	G02 - 02
	令5.284集
	社会 - 小

学習したことを関連付け、自分の地域や生活 についての考えを深める児童の育成

——「くらべるシート」の作成や友達との意見交流を通して——

特別研修員 富永 正明

I 研究テーマ設定の理由

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』の第5学年の目標、(1)において、「我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解する」とあり、学習内容と自分の地域や生活とを比較し、関連付けて理解することの大切さが述べられている。

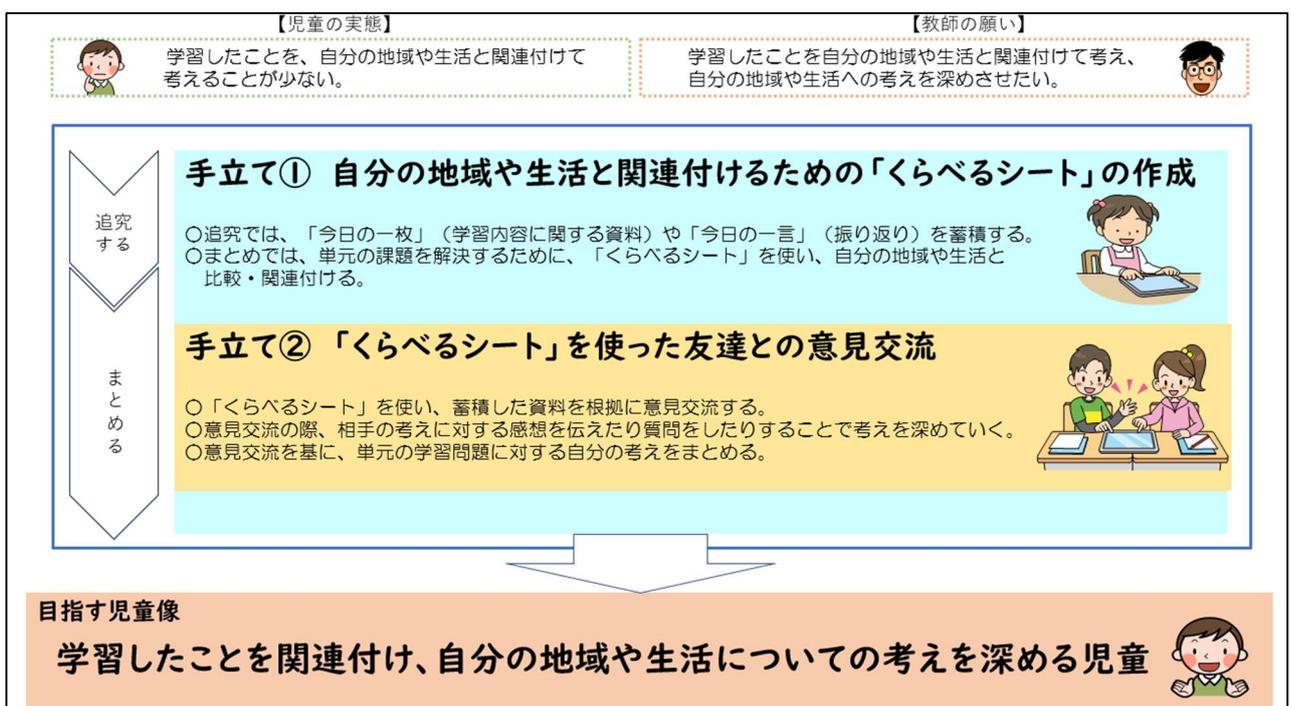
また、群馬県教育委員会から示された「令和5年度学校教育の指針」の、社会科の授業改善のポイントでは、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係を多面的・多角的に考察したことや、社会に見られる課題の解決に向けて考えたことについて、他者と語り合う活動を設定しましょう。」とあり、考えを深めるための話し合い活動の充実が求められている。

研究協力校（以下、協力校）の児童は、学習したことと自分の地域や生活とを比較し、関連付ける活動が少なく、地域や生活について考えを深めるまでには至っていない。また、資料から読み取ったことをもとに自分の考えをもつことはできるが、友達に自分の考えを伝えるだけになってしまうという実態があった。

そこで、学習したことと自分の地域や生活と関連付けるための「くらべるシート」を作成し、シートを活用して友達と意見交流する活動を取り入れることで、自分の地域や生活についての考えを深める児童を育成したいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

自分の地域や生活についての考えを深める児童に近付くために、二つの手立ての実践を試みた。

手立て1 自分の地域や生活と関連付けるための「くらべるシート」の作成

手立て2 「くらべるシート」を活用した友達との意見交流

手立て1は、毎時間の授業の振り返り活動を、ICTで作成したシートで行うものである。

単元のめあてを設定した後、「追究する」過程で「今日一枚」（単位時間のまとめに関連する資料の写真データ）を貼り付け、「今日の一言」（単位時間の学習内容について考えたこと）を入力することで、各単位時間で学習したことや考えたことを蓄積していく。「くらべるシート」に毎時間の学習内容や振り返りを蓄積していくことで、前時までの学習内容や自分の考えをいつでも振り返ることができる。また、各単位時間のまとめに関連する資料を写真で貼り付けることで、学習内容の定着度を高めることにもつながる。

「まとめる」過程では、これまでの学習を踏まえ、「くらべるシート」を使い、自分の地域や生活を比較・関連付ける活動を行う。更に、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較し、似ている取組等を見付け、そのよさについて考えたことを入力する。

手立て2は、手立て1で作成した「くらべるシート」を使い、少人数の班やクラス全体で意見交流を行う。児童は貼り付けた写真から分かることを根拠にしながら、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較し、考えたことを発表する。次に、相手の考えに対する感想を伝えたり質問をしたりすることで、より活発な意見交流にしていく。

班やクラス全体での意見交流を通して、自分と友達の考えを比較し、多様な考え方に触れることで、自分の考えを深めることができると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「くらべるシート」に学習内容を蓄積したことで、いつでも学習内容を振り返ることができるので、本時の学習活動にスムーズに入ることができ、学習内容の定着度を高めることにもつながった。また、蓄積した学習内容を基に自分の考えをもつ際にも活用する様子が見られた。
- 比較したい資料を「くらべるシート」に貼り付ける作業は、ICTを活用すると短時間でできるため、思考する時間や意見交流の時間が多くとれた。
- 意見交流の際に、相手の考えに対する感想を言ったり質問をしたりすることを意識させたことで、相手の意見に対して自分の考えを伝える姿がみられた。また、多様な考えに触れることで、自分の考えだけでなく友達の意見を取り入れる姿が多く見られた。
- 「くらべるシート」を作成することで学習内容の整理ができ、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較・関連付けて考えることができた。また、それを活用し意見交流をすることで自分の考えを更に深めることができた。

2 課題

- 友達との意見交流の際、根拠となる資料について説明をより工夫をすると、交流の際の内容が更に充実すると考える。

実践例

1 単元名 「これからの食料生産とわたしたち」 (第5学年 2学期)

2 本単元について

本単元では、我が国の食料生産が自然条件を生かして営まれており、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。そして、食料生産に関わる人々が生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解する。

また、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割や生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することができるようにする。

これまでの学習を踏まえた本単元の学習を通して、自分の地域や生活でも「食の安全・安心の確保」や「地産地消の取組」等が行われていることを理解し、日本の食料生産の課題を解決するために、自分たちにどのようなことができるかを考えることをねらいとしている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	(1) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。(知識及び技能) (2) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等) (3) 我が国の食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決する態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。 (2) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現している。 (3) 我が国の食料生産について、予想や学習計画を立て学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究している。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・日本の食料生産の課題について考え、学習問題をつくる。
追究する	第2時	・日本の食料自給率が低下した原因を考える。
	第3時 第4時	・食の安全・安心の確保のため、どのような取組が行われているかを調べる。 ・地産地消の内容やよさを考える。
まとめる	第5時	・日本の食料生産の課題解決のために、自分たちができることを考える。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たる。ここでは、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較し、同じような取組の写真を貼り付け、その取組のよさについて考える。それをもとに、班やクラス全体で意見交流することで、自分の考えを深める。そのための手立てを、次ページのように具体化した。

手立て1 自分の地域や生活と関連付けるための「くらべるシート」の作成

「くらべるシート」を使い、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較し、似ている取組を写真で貼り付ける。次に、その取組のよさについての自分の考えを入力する。

手立て2 「くらべるシート」を活用した友達との意見交流

「くらべるシート」を活用し、写真から分かることを根拠にしながら、班や全体で意見交流する活動を取り入れる。発表した児童の考えに対して、必ず感想を言わせたり質問をさせたりする。

4 授業の実際

(1) 手立て1 自分の地域や生活と関連付けるための「くらべるシート」の作成

第1時～第4時まで、本単元の学習問題や各単位時間の学習内容について考えたことを、ICTを使用した1枚の「くらべるシート」に入力させてきた。「くらべるシート」を本時の授業にも使い、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較し、同じような取組に関する写真を探して貼り付けることで、文字だけのまとめより、資料を根拠にまとめることを意識付けることにつながった。更に、自分の地域や生活で行われている取組のよさを入力することで、これまでの学習内容と自分の地域や生活とを比較・関連付けて考えることができた(図1)。

☀️ 自分の考え ☀️	
これまでの学習	藤岡市や自分の生活の似ている取組
	
地域で生産された農産物を販売する店の写真	学校の近くにある産地直送品を扱うスーパーの写真
自分の考え👉どんなよさがあるかな?	
「地産地消」には、安い・新鮮・安心・環境に優しいというメリットがある。特に、地元藤岡市や群馬県で作られたものを買うだけで、環境にも優しいというのはとても良い取組だと思う。	
これまでの学習と自分の地域や生活とを比較し、取組のよさを考える	

図1 くらべるシート

「くらべるシート」は、共有されているので、いつでも友達を選んだ写真や考えを見ることができ、ノートを使うよりも分かりやすく意見交流をすることができた。本時では、以下のように、これまでの学習と自分の地域や生活とを比較・関連付けて考える記述が多く見られた(図2)。

- ・全国で地産地消の取組が行われている。私たちの学校の近くのお店でも、藤岡市や群馬県内で生産された野菜がたくさん売られている。地元で生産された野菜などはとても新鮮で、作った人も分かる工夫がしてあるから、安心して食べることができるよさがある。藤岡市でも全国と同じような取組をしていて、学習したことと自分の地域につながりがあることが分かった。

図2 自分の地域や生活で行われている取組のよさを記述

(2) 手立て2 「くらべるシート」を活用した友達との意見交流

本時では、自分の考えを広げるために、班やクラス全体での意見交流を取り入れた。

まず、「くらべるシート」を活用し、写真から分かることを具体的な根拠として説明し、自分が考える取組のよさを発表した。発言した児童に対して、必ず感想を言ったり、不明な点について質問したりするように声を掛け、より活発な意見交流になるようにした(図3)。

班での意見交流の場面で、「藤岡市も他の地域と同様に、地域の自然を生かした野菜づくりをしている。」「自分たちが暮らしている地域で生産されたものの方が、より新鮮で安く、しかも、安心して食べることができるよさがある。」「他の県や外国から輸送するよりもフードマイレージが少ないから、より環境にやさしいというよさもあると思う。」のような意見が出され、友達の考えをしっかりと聞いた上で、自分の考えを深める姿が見られた。

次に、班の代表に選ばれた児童が、クラス全体の前で自分の考えを発表した(図4)。クラス全体での意見交流によって、更に多くの考え方を知ることができた。「くらべるシート」を活用した友達との意見交流により、自分と友達の考えを視覚的にも比べることができ、新しい気づきが生まれるので、自分の考えを広げるのに有効であった。

本単元の学習後のアンケートでは、「くらべるシートがあることで、学習したことと藤岡市や自分の生活を比較しやすかった。」「くらべるシートを使うようになってから、藤岡市や自分の生活で似ていることはないか探すようになった。」など、自分の地域や生活についての考えを深める記述が多く見られた。



図3 班での意見交流



図4 クラス全体での意見交流

5 考察

学習後の児童への聞き取りでは、「くらべるシート」を作成したことで、学習内容が蓄積され、前時までの学習内容と本時の学習内容、自分や友達の考えの比較がしやすかったという感想が多かった。まとめる過程では、これまでに学習したことと自分の地域や生活と比較・関連付けて考えている様子も多く見られた。また、「くらべるシート」を使って意見交流したことで、学習したことを基に自分の考えをもち、友達と対話する姿が見られるようになった。班やクラス全体での意見交流の際、相手の考えに対して必ず感想を言ったり質問をしたりするようにしたことで、多様な考えに触れることができ、自分の地域や生活についての考えを深める姿が見られた。

今回の研究のように学習内容と自分の地域や生活と比較・関連付ける方法として、「くらべるシート」を使ったことは、学習したことを関連付け、自分の地域や生活についての考えを深めることに有効であることが分かった。今後も引き続き児童の考えを深める手立てを模索して、授業改善を進めていきたい。